

学校名	研究課題	研究手法
新神田小学校	算 数	学習評価の充実

1 研究の重点と具体的な取組

(1) 重点1 「自分の考えをもつ」ための手立ての工夫

- ①児童に考えをもたせ意欲的に学習しようとする力を育てるために、考えてみたくなる学習課題を設定する。
- ②「できるようにになりたい」「習ったことが使えそうだ」と感じる課題提示を行い、課題解決の意欲や見通しがもてるようにする。
- ③適用問題、学習掲示等を工夫し、それらの手立てが有効であったかを明らかにしていく。
- ④学習のまとめや振り返りの時間を大切にし、次の学習に活かすようにする。



前時までの学習掲示



解決への見通しがもてるヒント



ワークシートの工夫

(2) 重点2 「学び合い、深める」ための手立ての工夫

- ①児童同士が互いに学び合う姿」を目指し、学習形態を工夫する。
- ②目的意識をもたせたペア・グループ学習を積極的に取り入れながら、全体交流へとつなげられるようにする。
- ③板書や発問（問い返しや揺さぶり、確認など）を工夫し、児童の気づきをうながし、考えを「深める」ための指導の工夫をする。
- ④話型の活用や話し方・聴き方の指導も併せて行い、児童一人一人の思考力・判断力・表現力を育てていく。



ペア・グループ学習で確かめ合う



大型テレビを使って考えを伝える



考えが深まる板書の工夫

2 取組の検証

(1) 重点1 「自分の考えをもつ」ための手立ての工夫

◆児童アンケート（肯定的回答の割合）		
項目	7月	12月
どんな勉強をするのか学習課題がはっきり分かっている	93.6%	95.8%
算数の授業が分かる	91.7%	94.6%
自分の考えを言葉や図、式などを使ってノートに書いている	82.6%	94.3%

◆教員アンケート（肯定的回答の割合）		
項目	7月	12月
思考力・判断力・表現力等身に付けるための具体的な手立てを指導案に明記し、実践している	100%	100%
課題解決型の授業に取り組み、「学び合い」を意識した授業に取り組んだ	100%	100%
	A評価:55.6%	A評価:68.8%

※ A 評価・・・よくあてはまる

①児童アンケートより

「自分の考えを言葉や図、式などを使ってノートに書いている」と感じている児童が、前期よりかなり増え、後期は11.7%上昇し、全校で94.3%であった。9割以上の児童が自分の考えを書くことができていると感じている。

②教員アンケートより

児童の実態に応じて「思考力・判断力・表現力等身に付けるための具体的な手立てを指導案に明記し、実践している」では、前後期とも100%で、特に後期にA評価（よくあてはまる）が20%上昇した。



課題提示の工夫



言葉・図・式を使って考えをかく



(2) 重点2 「学び合い、深める」ための手立ての工夫

◆児童アンケート（肯定的回答の割合）		
項目	7月	12月
自分の考えを進んで発表している	79.6%	85.2%
授業のノートにまとめを書いている	86.9%	94.9%
発表を通して友達の考えが分かる	92.3%	91.6%

◆教員アンケート（肯定的回答の割合）		
項目	7月	12月
課題に対応した「まとめ」を書くよう指導している	100%	91.4%
話し合う活動を通じて、児童が考えを深めたり、広げたりすることができるよう工夫している	100%	100%
	A評価:65%	A評価:67%

※ A 評価・・・よくあてはまる

①児童アンケートより

「自分の考えを進んで発表している」児童の割合は前期より5.6%上昇したが、90%には届いていない。また、「発表を通して友達の考えが分かる」と感じている児童が前後期とも多くいることが分かった。

②教員アンケートより

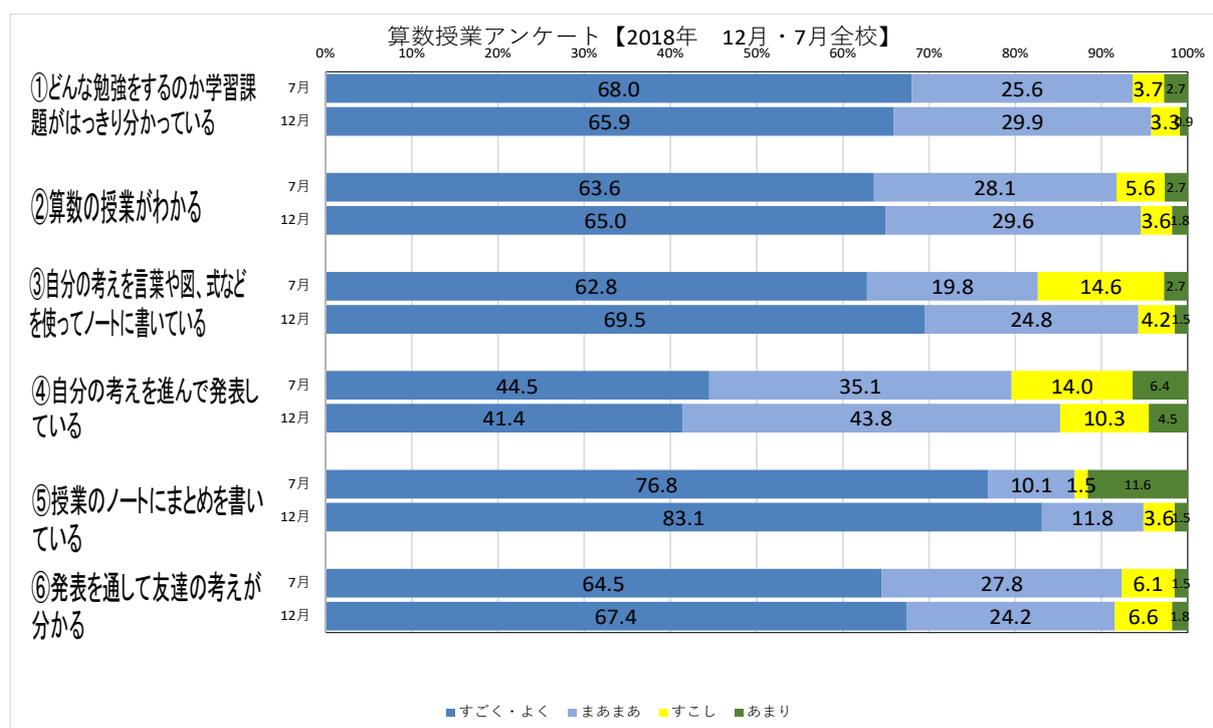
「話し合う活動を通じて、児童が考えを深めたり、広げたりすることができるよう工夫している」教員の割合が前後期とも100%で、特に後期にA評価（よくあてはまる）が、わずかながら上昇した。



ペア学習やグループ学習で互いの考えを聴く



全体でさらに考えを深化させる



3 成果と課題

(1) 重点1 「自分の考えをもつ」ための手立ての工夫

①成果

「思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるための具体的な手立てを指導案に明記し、実践する」ことで、教員の授業改善に向けた意識が高まり、指導力の向上を図ることができた。そして、9割以上の児童が「自分の考えを言葉や図、式などを使ってノートに書く」ことができるようになり、「算数の授業が分かる」ことにもつながったと思われる。

②課題

教師は金沢型学習スタイルに基づき、課題解決型の授業に取り組んでいる。児童にとって学習課題がはっきり分かっていないと見通しをもって解決に取り組むことができない。学習課題が分かっていない児童が4～7%いるので、挙手や机間指導で児童の様子を確かめながら授業を進め、適切な指導を行っていく。

(2) 重点2 「学び合い、深める」ための手立ての工夫

①成果

教師が授業づくりにおいて「話し合う活動を通じて、児童が考えを深めたり、広げたりすることができるよう工夫する」ことで、児童が進んで発表したり、発表を通して友達の話のよさに気づいたりすることができるようになってきている。また、9割以上の児童がノートにまとめを書くことができていると感じており、学び合いを通して理解を深めることができたと思われる。

②課題

「自分の考えを進んで発表している」児童の割合は前期より5.6%上昇したが、90%には届いていない。間違いを恐れたり自信がなかったりして発言できない児童が多いので、日頃から自分の考えを素直に出せたり、周りが受け止めてあげたりできる授業づくりや学級づくりを目指していく。